

岐阜労働局発表
平成24年5月15日（火）

担 当	岐阜労働局職業安定部職業安定課	
	職業安定課長	水谷 賢二
	地方職業指導官	水端 盛仁
	電話	058-245-1311
	FAX	058-245-3105

報道関係者各位

大学等新卒者の就職支援の強化の効果について

～「卒業前最後の集中支援 2012」により大学生 344 人の
就職が決定、内定率にして 11.7 ポイントの押し上げ効果～

岐阜労働局では、岐阜県内の平成24年3月大学・短期大学（以下「大学等」という。）卒業予定者の就職内定状況（平成24年3月末現在）を取りまとめたところ、就職希望者数が前年同期比2.0%増加したが、就職内定者数も同比2.4%増加したことから、就職内定率は同比0.3ポイント上回る91.9%となった。

就職内定率は、11月末現在の調査時点では前年同期を上回る水準で推移するも、1月末現在の調査においては前年同期を下回り、未内定者数も1月末現在で前年同期を+11.4%（133人）と大きく上回っていた。

このような中、新卒応援ハローワーク及び各ハローワークは「卒業前最後の集中支援2012」の取組みを実施（平成24年1月17日～3月末）。大学等の就職支援担当者との連携を強化し、未内定学生ごとの状況を把握、学卒ジョブサポーターを中心とした個別支援の徹底などにより、同期間に583人が就職決定しました。特に、大学生については同期間に344人が就職しており、内定率にして11.7ポイントの押し上げ効果があった。

就職未内定者は前年同期より減少したが346人いることから、引き続き新卒応援ハローワーク及び各ハローワークのジョブサポーターによる集中的な個別の支援を継続していく。

1 就職状況等の概要について

【大学・短大】（別添の【表1】参照）

- | |
|------------------------------------|
| (1) 卒業予定者数は5,510人で、前年同期に比べ1.3%増加。 |
| (2) 就職希望者数は4,259人で、前年同期に比べ2.0%増加。 |
| (3) 就職内定者数は3,913人で、前年同期に比べ2.4%増加。 |
| (4) 未内定者数は346人で、前年同期に比べ1.4%減少。 |
| (5) 就職内定率は91.9%で、前年同期に比べ0.3ポイント増加。 |

【大学】（別添の【表2】参照）

- | |
|------------------------------------|
| (1) 卒業予定者数は3,930人で、前年同期に比べ0.9%減少。 |
| (2) 就職希望者数は2,949人で、前年同期に比べ0.3%減少。 |
| (3) 就職内定者数は2,688人で、前年同期に比べ0.4%増加。 |
| (4) 未内定者数は261人で、前年同期に比べ6.8%減少。 |
| (5) 就職内定率は91.1%で、前年同期に比べ0.6ポイント増加。 |

【短大】(別添の【表3】参照)

- | |
|------------------------------------|
| (1) 卒業予定者数は1, 580人で、前年同期に比べ7.1%増加。 |
| (2) 就職希望者数は1, 310人で、前年同期に比べ7.6%増加。 |
| (3) 就職内定者数は1, 225人で、前年同期に比べ6.9%増加。 |
| (4) 未内定者数は85人で、前年同期に比べ19.7%増加。 |
| (5) 就職内定率は93.5%で、前年同期に比べ0.7ポイント低下。 |

《参考》

ア この調査は、岐阜県内の大学等(大学(14校)・短大(11校))が学生からの報告等により把握している状況等について、大学等の協力を得て岐阜労働局が取りまとめたものです。

なお、厚生労働省及び文部科学省が公表している「大学等卒業予定者の就職内定状況調査」は、全国の大学等に対する抽出調査で実施しており、調査方法等が異なることから、調査結果における数値を直接比較できるものではありません。

イ 平成24年3月大学等卒業者の採用内定開始時期は、「大学卒業予定者・大学院修士課程修了予定者等の採用選考に関する企業の倫理憲章」において、次のとおり定められている。

○ 大学・短大等 平成23年10月1日以降

ウ 調査時期及び発表時期

【調査時期】	【発表時期】
10月 1日	11月 9日
11月末	1月17日
1月末	3月16日
3月末	5月15日

2 大学・短大別の就職状況等の特徴について

(1) 大学・短大計の状況(別添2-1参照)

就職内定率は、91.9%で、前年同期より0.3ポイント上昇した。

就職内定率の前年同期比を調査時点別にみると、10月1日時点▲2.5ポイント、11月末時点+2.4ポイント、1月末時点▲2.2ポイント、3月末時点+0.3ポイントとなり、前年度は年明け以降に上昇率が大きくなったところが、今年度は年内からの内定率が高まった。

就職内定者数は、3月末時点で3,913人で、前年同月比2.4%増加し、未内定者数は346人で、前年同月比1.4%減少した。

卒業予定者数、就職希望者数が前年同期より増加しているなか、就職内定者数及び就職内定率が前年同期を上回ったのは、厳しい就職環境の中で、学生の熱心な早期からの就職活動及びそれをフォローするハローワークの学卒ジョブサポーターと大学等の連携による支援の効果がみられる。

(2) 大学の状況(別添2-2参照)

就職内定率は91.1%で、前年同期より0.6ポイント増加した。

就職内定率の前年同期比を調査時点別にみると、10月1日時点▲3.6ポイント、11月末時点+4.9ポイント、1月末時点▲1.7ポイント、3月末時点+0.6ポイントとなっている。

就職内定者数では1月末調査時点までは前年を下回っていたが、3月末時点で前年同期比で増加に転じた。

(3) 短大の状況(別添2-3参照)

就職内定率は93.5%で、前年同期より0.7ポイント減少した。

就職内定率の前年同期比を調査時点別にみると、10月1日時点では+0.3ポイントであったが、11月末時点▲3.5ポイント、1月末時点▲3.8ポイント、3月末時点▲0.7ポイントとなり、就職内定者数では前年度上回ったものの、就職希望者数の増加により未内定者が前年比大きく増加し、就職内定率は前年同期で減少となった。

3 卒業前最後の集中支援2012

～新卒応援ハローワーク及び各ハローワークの主な支援～

- ・ 新卒応援ハローワーク及び各ハローワークの学卒ジョブサポーターを中心に、各大学等のキャリア支援担当者と連携を一層密にして、支援を必要とする未内定学生の情報を共有し、個別相談や個別求人開拓を重点とした支援を実施。
- ・ 卒業時期を迎え、他県（他地域）への就職を希望する学生や、県内への就職を希望する県外大学等卒業予定者に対しては、全国の新卒応援ハローワークの案内とともに、ハローワークシステムを活用した県外・管外求人の提供等、卒業後・帰省後の支援についても案内しながら連携した支援を実施。
- ・ 大学等のニーズに応じ、ジョブサポーターによる校内での出張相談を定期的に行うなどの連携による支援の実施。

4 卒業後の新卒者への支援

- ・ 卒業後も1日でも早く就職できるよう、6月末までを集中支援期間とし、新卒応援ハローワーク等で引き続き就職活動を全力で支援します。
- ・ 卒業後3年以内の既卒者を採用した事業主への奨励金を活用し、未内定者・既卒者のための求人を確保します。

平成24年3月新規大学等卒業者の就職状況(岐阜県)

《大学・短大》

【平成24年3月末現在】

【表1】

平成22年度 (平成23年3月卒)	卒業予定者数	就職希望者数	内定者数	未内定者数	就職内定率(%)
	5,441	4,174	3,823	351	91.6
平成23年度 (平成24年3月卒)	卒業予定者数	就職希望者数	内定者数	未内定者数	就職内定率(%)
	5,510	4,259	3,913	346	91.9
対前年度比(%、P)	1.3	2.0	2.4	▲ 1.4	0.3

《大学のみのみ》

【平成24年3月末現在】

【表2】

平成22年度 (平成23年3月卒)	卒業予定者数	就職希望者数	内定者数	未内定者数	就職内定率(%)
	3,966	2,957	2,677	280	90.5
平成23年度 (平成24年3月卒)	卒業予定者数	就職希望者数	内定者数	未内定者数	就職内定率(%)
	3,930	2,949	2,688	261	91.1
対前年度比(%、P)	▲ 0.9	▲ 0.3	0.4	▲ 6.8	0.6

《短大のみのみ》

【平成24年3月末現在】

【表3】

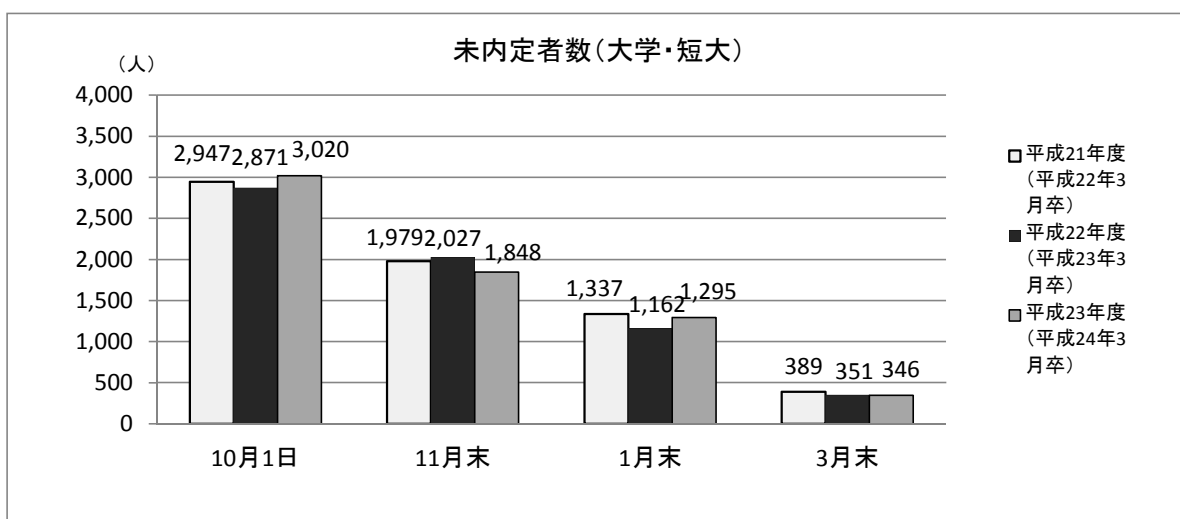
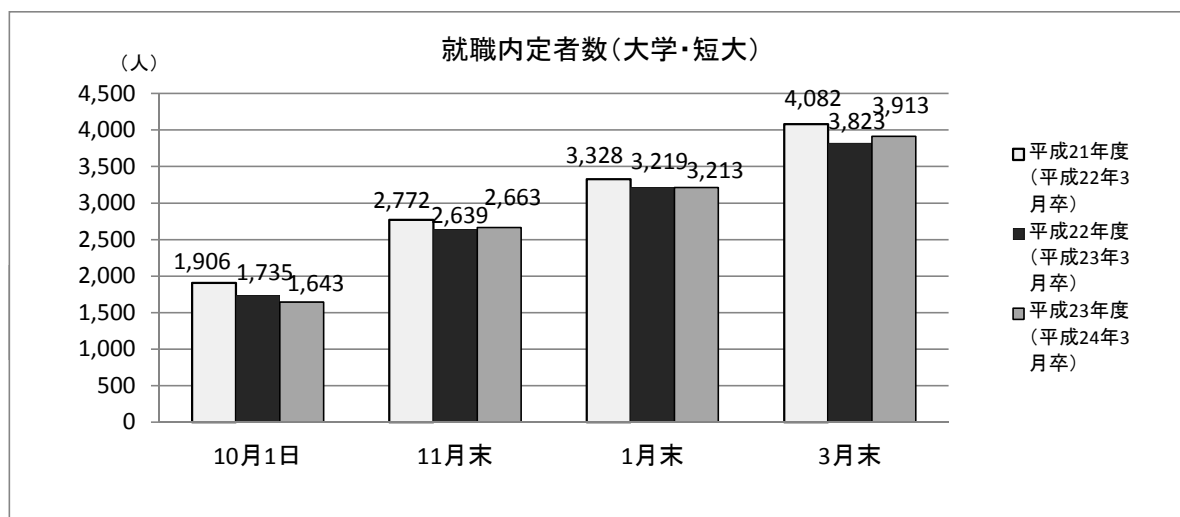
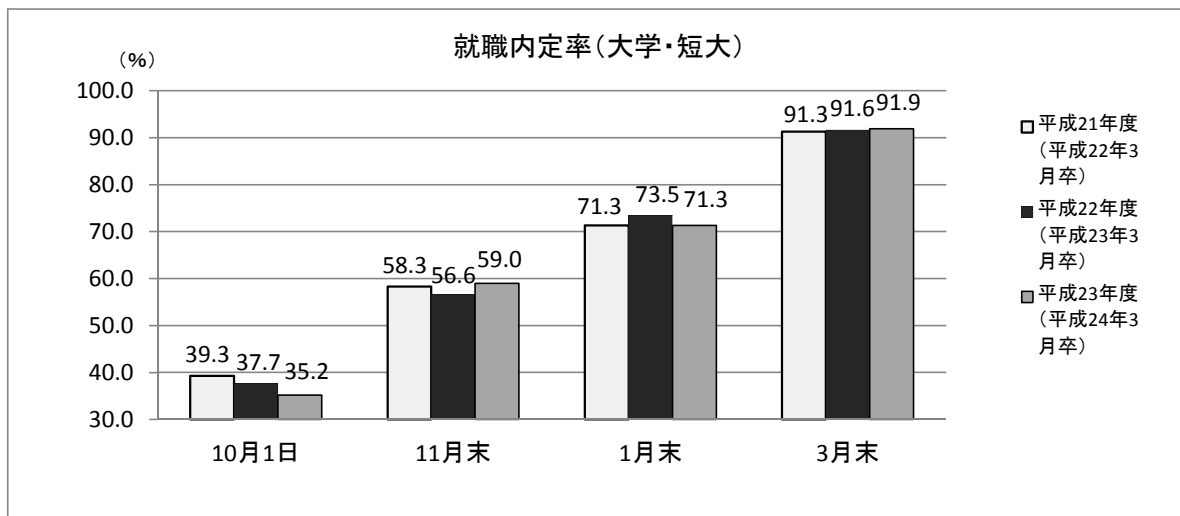
平成22年度 (平成23年3月卒)	卒業予定者数	就職希望者数	内定者数	未内定者数	就職内定率(%)
	1,475	1,217	1,146	71	94.2
平成23年度 (平成24年3月卒)	卒業予定者数	就職希望者数	内定者数	未内定者数	就職内定率(%)
	1,580	1,310	1,225	85	93.5
対前年度比(%、P)	7.1	7.6	6.9	19.7	▲ 0.7

※ 上記就職状況は、各年度の同時期における数値である。

※ 公表については、平成22年3月卒業者の平成22年3月末現在(前年同期の就職状況を含む)から集計を開始した。

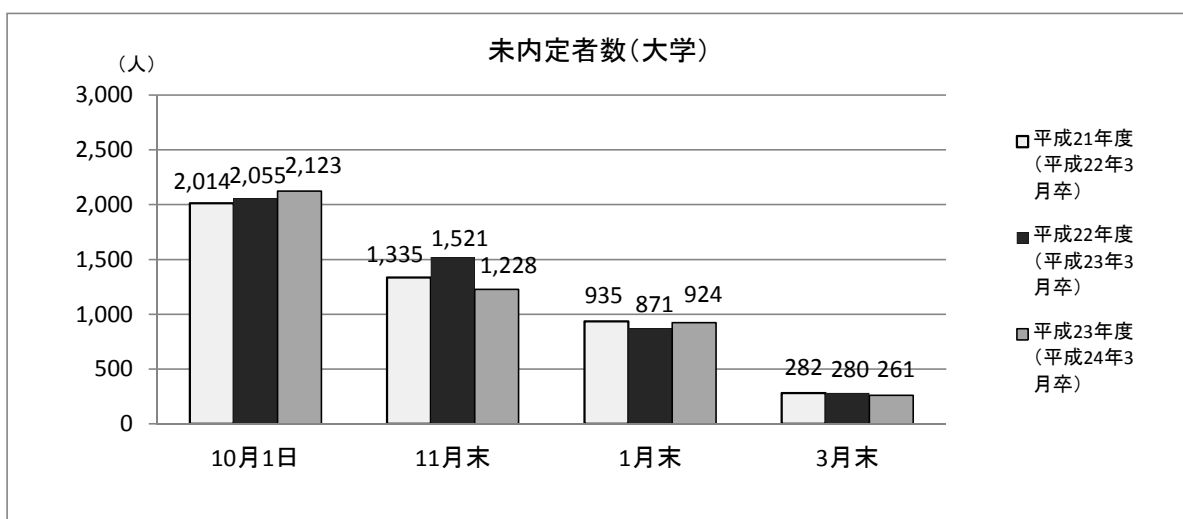
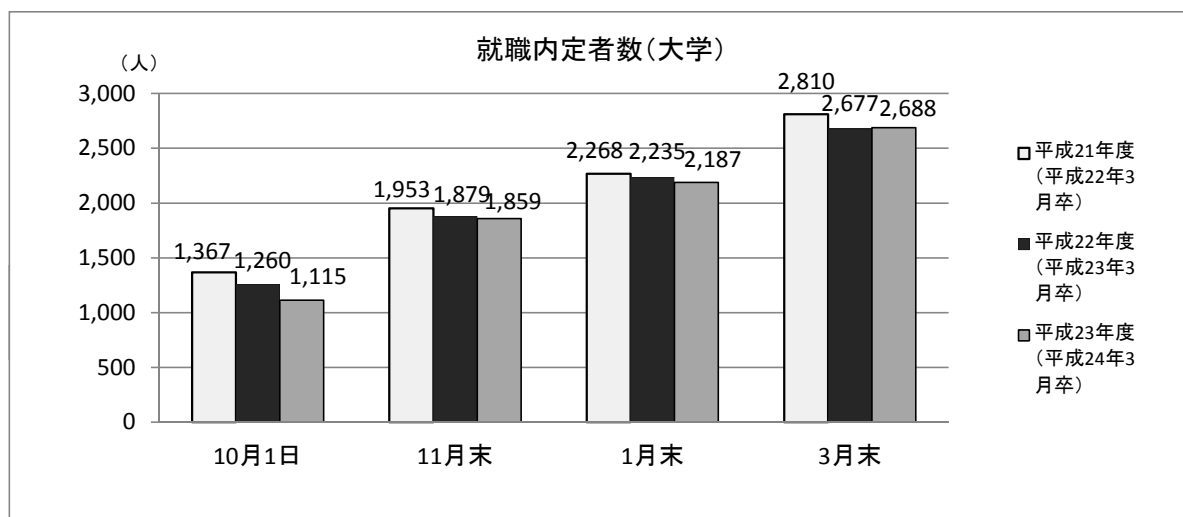
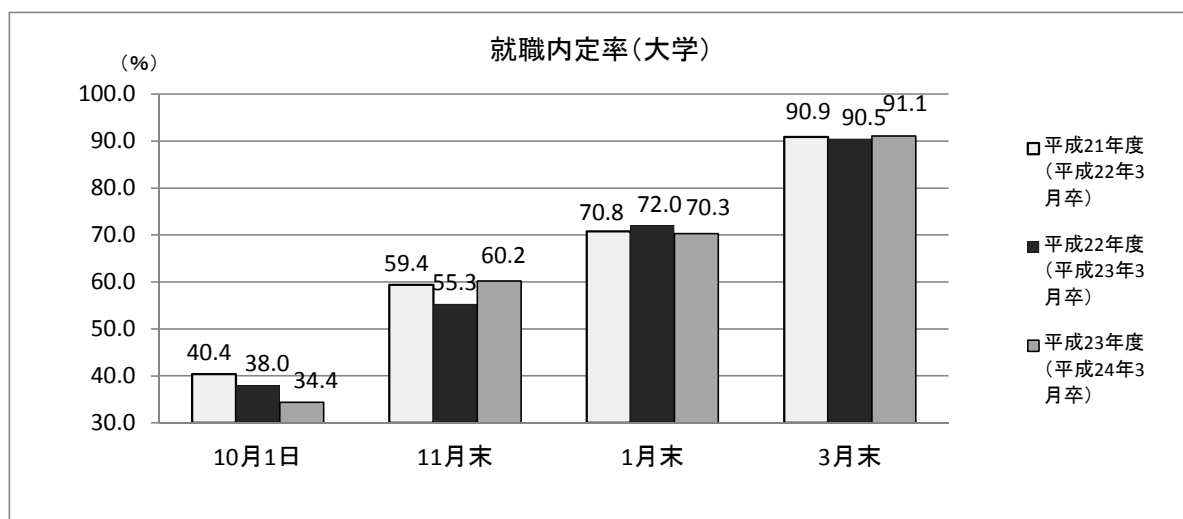
新規大学等卒業予定者の就職状況(年度別・集計時点別の推移)

岐阜労働局職業安定部



新規「大学」卒業予定者の就職状況(年度別・集計時点別の推移)

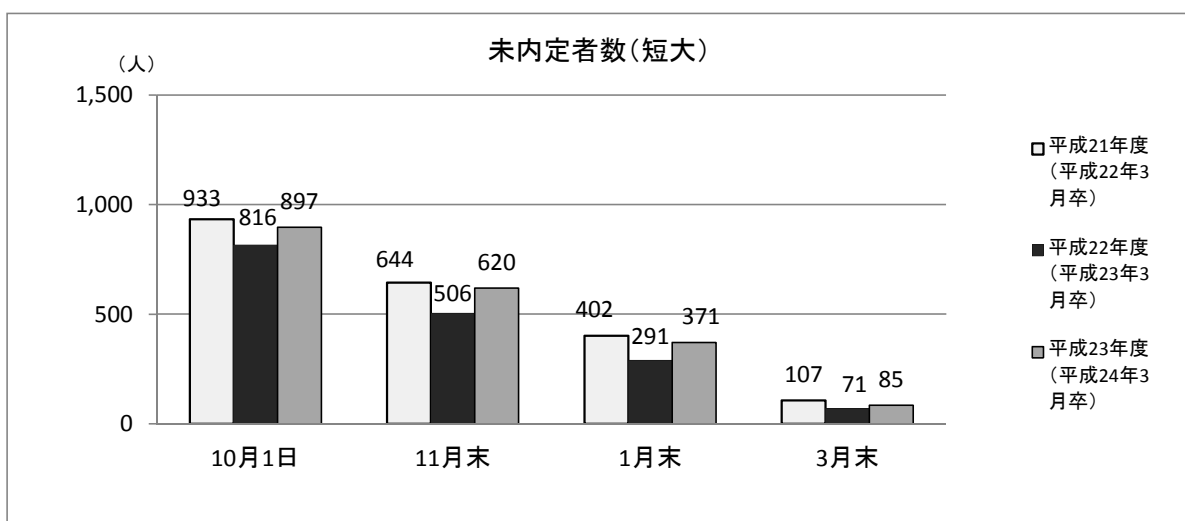
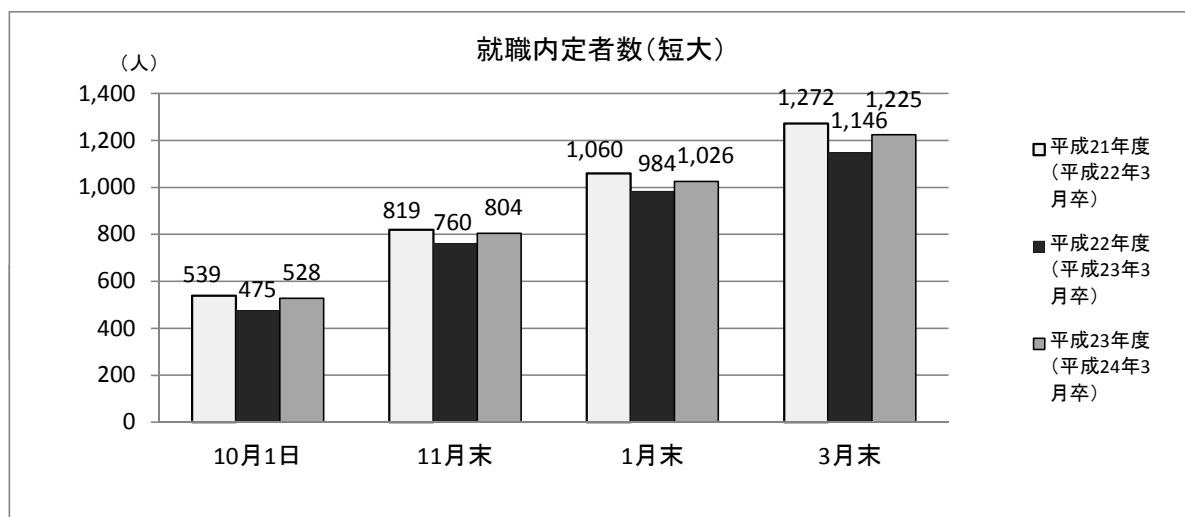
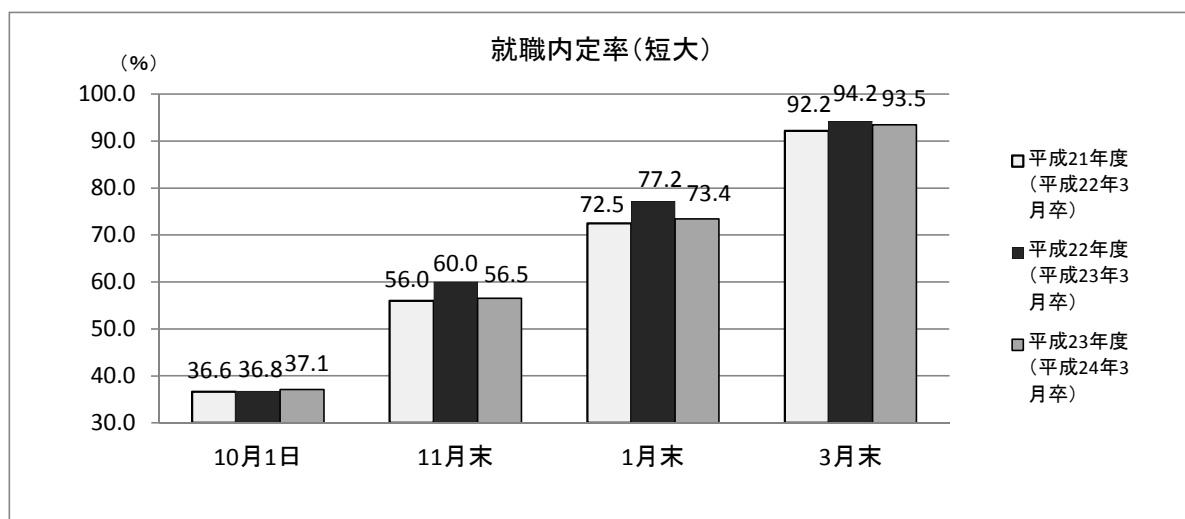
岐阜労働局職業安定部



※本統計の集約は「平成22年3月末現在(前年同期比を含む)」の状況から開始しました。

新規「短期大学」卒業予定者の就職状況(年度別・集計時点別の推移)

岐阜労働局職業安定部



※本統計の集約は「平成22年3月末現在(前年同期比を含む)」の状況から開始しました。

ハローワークで新卒者の就職支援を進めています！ 岐阜局版

岐阜労働局・ハローワークでは、将来の日本を担う新卒者が安定した仕事に就けるよう、新卒者・既卒者の就職支援を進めています。

「ジョブサポーター」の抜本的増員によるきめ細かな支援

「ジョブサポーター」を抜本的に増員（※）、ハローワーク・新卒応援ハローワークで学校と連携したきめ細かな支援を行っています。

○ ジョブサポーターが支援した中学・高校・大学等の就職者の実績

【就職者数】 平成22年度（平成22年9月～23年3月末） **1,045人** 平成23年度（平成24年3月末までの速報値） **2,979人**

※15人（平成22年度当初）→32人（経済対策（平成22年9月10日））→41人（緊急総合経済対策（平成22年10月8日））→43人（平成23年度一次補正）→45人（平成23年度三次補正）→47人（平成24年度）【岐阜】

【主な活動】

- 新卒者・既卒者向けの求人開拓（平成23年度（平成24年3月末まで）は**6,369人分**を開拓）
- 担当者制の個別支援（定期的な求人情報の提供、応募先の選定や就職活動の進め方の相談、エントリーシートや履歴書などの作成相談、面接指導など）
- 学校担当者制による、出張相談・就職支援セミナーなど学校のニーズに合わせた支援
- 職業適性検査や各種ガイダンス・セミナーなどの実施



【新卒応援ハローワークで相談】

○文部科学省・経済産業省との連携による「卒業前最後の集中支援」（平成22年度からの取組）

卒業が迫った年度末には、卒業までの就職を目標に、学校等の協力を得て新卒応援ハローワークやハローワークへの未内定者の誘導、ジョブサポーターによる電話等での来所の呼びかけ・来所者への個別支援、面接会の集中開催などを実施。

平成23年度は583人が就職（24年1～3月）

（参考）平成22年度は258人が就職（23年1～3月）、さらに卒業後も3か月以内の就職を目指し集中的に支援、6月末までに301人が就職。

全都道府県にワンストップで新卒者を支援する「新卒応援ハローワーク」を設置！

全都道府県に、就職活動中の学生・既卒者の皆様が利用しやすい専門のハローワークとして「新卒応援ハローワーク」を設置しました（平成22年9月24日～、平成24年4月1日現在57カ所）。

○ 岐阜新卒応援ハローワークの実績

【利用者数（延べ）】平成22年度（平成22年9月～23年3月末） **1,326人** 平成23年度（平成24年3月末までの速報値） **3,355人**

【就職者数】平成22年度（平成22年9月～23年3月末） **933人** 平成23年度（平成24年3月末までの速報値） **1,360人**



【新卒応援ハローワークの風景】

【主な支援メニュー】

- 全国ネットワークによる豊富な求人情報の提供・職業紹介・中小企業とのマッチング
- 求職活動に役立つ各種セミナー
- 担当者を決めての個別支援（定期的な求人情報の提供、応募先の選定や就職活動の進め方の相談、エントリーシートや履歴書などの作成相談、面接指導など）
- 臨床心理士による心理的サポート

「3年以内既卒者の新卒扱い」の普及に取り組んでいます！

雇用対策法に基づく「青少年雇用機会確保指針」（※）を改正（平成22年11月15日）し、事業主が取り組むべき措置として、**学校等を卒業後少なくとも3年間は新卒として応募できるようにすることを盛り込み**、労働局・ハローワークにおいて事業主への周知を進めています。

※ 雇用対策法第7条において事業主の努力義務として「青少年の雇用機会の確保」が定められており、事業主が具体的に取り組むべき事項を定めたものが「青少年雇用機会確保指針」です。

卒業後3年以内の既卒者を採用する事業主を支援するために、これらの方を採用する事業主への奨励金制度（※）を創設（平成22年9月24日）し、平成24年6月まで実施。

○ 実績（岐阜）

【雇用開始者数】平成22年度（平成22年9月～23年3月末） **564人** 平成23年度（平成24年3月末までの速報値） **1,302人**

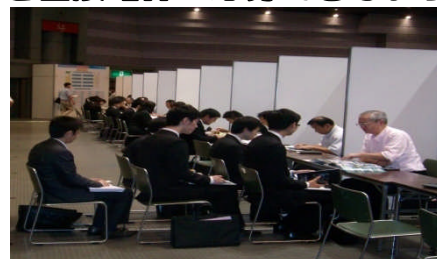
※ 3年以内の既卒者を対象にトライアル雇用を行う企業への奨励金・長期に育成支援が必要な3年以内の既卒者を対象にトライアル雇用を行う企業への奨励金・新卒扱いで3年以内の既卒者を採用する企業への奨励金

新卒者と中小・中堅企業とのマッチングに取り組んでいます！

新卒者が中小・中堅企業の人事担当者に直接、仕事の内容・魅力などを直接確認・応募できるように、企業説明会や就職面接会を開催しています。

○ 平成23年度（3月末まで）は28回実施【実績(岐阜)】

【右：岐阜新卒応援ハローワーク主催の「合同企業説明会」の様子】



ハローワークを通じて就職に結びついた好事例（岐阜局版）

事例1（学校内常駐相談）

10月以降も就職が決まらない生徒を抱える高校に対し、学校内常駐相談を提案。

それまで、学校の進路指導担当者による就職支援にも関わらず、まったく就職活動をしていなかった生徒や希望求人が見つからない生徒、またハローワークを利用することに抵抗があった生徒など21人について、常駐相談を実施。

学校では自分の希望をうまく表現できなかった生徒もジョブサポーターには思いを伝えるようになり、信頼関係が構築される中で、ジョブサポーターのアドバイスも受け入れ、個別に開拓してきた求人を提供するなど、個々のニーズを把握し、適切な支援を行ったことで19人が正社員として就職。2名は本人の希望もあり非正規ではあるが就職が決定した。

事例2（自信と気付きの支援）

外国語学部（TOEIC820点）の女性が新卒応援ハローワークに来所。事務を希望とのことで相談に入る。本人の自信のなさそうな感じから応募書類の自己PR・志望理由に着目。また、面接時に自信を持って対応できるよう、模擬面接も実施。結果、新たな自己PRできる部分の発見、応募に向けて万全な準備ができているという自信が、本人の気持ちも変えた。

その後、ある会社の事務職に応募。結局、当初の希望職種の事務でなく、海外営業（翻訳、通訳）としての内定を受ける。

ジョブサポーターによる支援を受けるうちに、本当にやりたい仕事は事務ではなく「語学力」を活かした仕事だと気づき、希望にかなった職種での採用に結びついた。

事例3（意思決定の必要性）

高校で就職ガイダンスを実施後、希望者にはハローワークで補講を実施。そのうちの一人の男子生徒はまじめな印象で、就職への希望についても通り一偏の回答しかなく、就職の意思がまだ固まっていないと感じた。相談を進めるうちに、不登校を克服して高校に進学したこと、就職よりも「教師」になりたいこと等の本音が見え隠れし始めた。両親に心配をかけたくないことから、不登校のきっかけを話すこともできず進学希望についても話せない状態でした。本人の気持ちを受容しながら相談を進め、本人の価値観は「人の役に立ち貢献したい」と理解。家庭事情から就職したいという気持ちを本人がはっきり意識できるようになった。支援の結果、地元大手の企業に採用された。

その他（岐阜局版）

○保護者への働きかけも進めています！

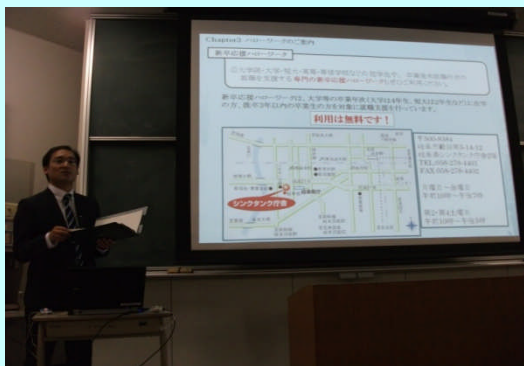
労働局等から学生・生徒の保護者に、就職をあきらめないこと、中小・中堅企業にも目を向けること、新卒応援ハローワークやハローワークを積極的に活用することなどを学生の保護者に呼びかける等の事業を実施。

啓発文書の送付	平成23年度(平成24年3月末まで)の送付は管内 94校
セミナーの開催	平成23年度(平成24年3月末まで)の開催件数は 12回 で 702人参加
相談件数	平成23年度(平成24年3月末まで)の相談件数は 81件

○大学等1年生を対象としたハローワークガイダンスを新たに開催！

- ①自分の職業適性・職業興味を発見する・探索する。
- ②変化を続ける「職業の世界」を知り、労働市場の状況を感じ、職業を通じて自分は社会とどう関わっていくのか等を考え、自分の進むべき進路・就職にたどり着かせる。

①②の取り組みによって、就職への不安に駆られ、多数の応募を重ね、結果として就職活動が長期化・早期化し、膨大なエネルギーを費やすといった現状を改善する。という内容のハローワークガイダンスを、労働局長が大学局長に開催依頼。



- 平成24年4月より、ガイダンス希望大学等にハローワークの所長等が出向き、ガイダンスを実施中！

【写真は、ガイダンス風景】